

「ひょうご健康夫婦大賞」に緒方夫妻

問い合わせ 高年福祉課 ☎38-2044

財団法人兵庫県健康財団が募集した平成15年度「ひょうご健康夫婦大賞」に、春日町の緒方裁吉氏(97歳)・初枝氏(89歳)のご夫妻が選ばれました。

緒方裁吉氏は、歴史に名を残した蘭学者・緒方洪庵のひ孫であり、適塾記念会の理事をされ、毎年発行誌に寄稿されています。年4回程のバス旅行をしたり、映画鑑賞や観劇にもご夫妻で出かけられます。お二人とも食事は好き嫌いがなく、魚と野菜を中心に摂るよう心がけ、夫婦喧嘩もすることなく穏やかに暮らしておられます。3月4日、お二人に兵庫県健康財団会長から書状と夫婦茶碗を贈呈しました。



高齢者バス運賃助成事業

問い合わせ 高年福祉課 ☎38-2044

市では平成15年度から、市内に住民登録または外国人登録をしている満70歳以上のかたに、バス運賃の助成として年間3,000円の『阪急バス乗車券購入助成券』を交付しています。今年度は、対象のかたに3月26日付けで助成券を普通郵便(「高齢者バス運賃助成事業助成券のご案内」と記載)で送付しています。

4月1日以降、助成券と引換えに『敬老回数カード』(3,000円券、3,300円分乗車可)と交換、または『高齢者用定期券(阪急グランドバス65)』を購入されるかたは3,000円分の割引が受けられます。『敬老回数カード』は、本事業のために作成した交換用のカードです。市販の回数カードと同様にお使いいただけます。

助成を受けられるかたは助成券の申請者欄に、署名・押印(認印)をして直接下記の窓口で交換してください。交換期間は4月1日から平成17年3月31日までです。

取扱窓口	取扱時間	取扱品目
市役所内売店 (南館地下1階)	9時30分～16時15分 (市役所開庁日)	敬老回数カード
花岩駅前ショップ (JR芦屋駅前広場西階段下)	9時～18時15分 (日曜を除く)	敬老回数カード
阪急バス芦屋浜営業所 (新浜町1-3)	7時～19時 *定期券の販売は、 月末3日間と月初めの2日間のみ	敬老回数カード 高齢者用定期券
阪急芦屋川駅 売店 (芦屋川駅構内 券売機横) 4月上旬に閉店予定	7時30分～19時 *定期券の販売は、月末3日間と 月初めの2日間のみ	敬老回数カード 高齢者用定期券

高齢者用定期券を購入の際は、顔写真(2.5×3cm)と健康保険証等の身分証明が必要です。
*助成は、いずれか1回限りです。(助成券が届いていないかたは高年福祉課へ)
*郵便宛名のご本人のみご利用いただけます。他のかたへの譲渡は禁止します。
*敬老回数カードは助成券との交換用ですので、現金での販売はしていません。
*バスの車内での交換はできません。
*昭和9年4月以前に生まれたかたへは、助成券を一斉に送付しています。5月以降に満70歳となられるかたへは、そのかたの誕生月の前月末に助成券を送付します。
*助成券の再交付はしませんのでご注意ください。

福祉医療費のお知らせ

問い合わせ 保険年金課医療助成担当 ☎38-2037

平成14年度の福祉医療費助成制度における年間医療費をお知らせします。福祉医療費助成制度は健康と福祉の向上に役立てることを目的とした医療費の助成制度です。この制度は兵庫県と芦屋市および保険者からの拠出金でまかなっていますが、近年医療費が著しく増加しています。ご自身の健康作りのためにも健康診断の受診や適度な運動および食生活の工夫などをして積極的に健康作りの取り組みに心がけましょう。

平成14年度 福祉医療費の内訳

制度名	総医療費	助成額	一人あたり助成額(年間)	受給者数
老人	9億7,213万円	1億6,090万円	65,247円	2,466人
乳幼児	4億6,813万円	9,400万円	27,885円	3,371人
心身障害者	7億3,049万円	9,574万円	149,128円	642人
母子家庭等	1億6,148万円	4,378万円	33,242円	1,317人
高齢心身障害者	1億713万円	1億713万円	89,574円	1,196人
入院生活福祉給付金	1,590万円	1,590万円		
合計	24億5,525万円	5億1,745万円		

国民年金のお知らせ

平成16年度の納付書等が社会保険庁から次のとおり送付されます。この納付書で、コンビニエンスストア(納付書に記載)での納付が可能になりました。

免除を受けていないかた

16年度4月～17年3月分が、4月に届きます。

納付の免除・特例を受けているかた

全額免除... 6月まで免除承認済。7月～17年3月分が、7月に届きます。

7月以降も免除を希望する場合は、7月以降に再申請が必要

半額免除... 4～6月分が4月に、7月～17年3月分が7月に届きます。

7月以降も免除を希望する場合は、7月以降に再申請が必要

学生納付特例... 4月～17年3月分が、4月に届きます。

4月以降も継続希望のかたは、5月31日までに再申請が必要

問い合わせ 保険年金課年金担当 ☎38-2036

市民と市長 集会所トーク

問い合わせ 行政改革推進室 ☎38-2005

「市民と市長 集会所トーク」は、1月23日の朝日ヶ丘集会所に始まり2月14日の市民センターの最終日まで市内14カ所、350人も市民の皆さんに参加いただきました。

会場では、山中市長から市の厳しい財政状況や行政改革の取り組みについて説明し、市民の皆さんとフリートーク形式で意見交換を行いました。

ご出席の皆さんからは、市政に対する厳しい意見や要望のほか、励ましの言葉などさまざまなご意見をいただきました。その主なご意見等についてお知らせします。

これらのご意見やご要望は、今後のまちづくりに生かしてまいります。

山手幹線を凍結できないか

用地買収が92%まで進み、300人を超える地権者のご協力をいただいていること、治安や交通安全の面からも平面部分は進めていきます。芦屋川横断部(トンネル)は市独自ではできないので、県に支援を求めています。

総合公園にいくらお金がかかるのか

平成17年度から35年度にかけ、年5億円から6億円を負担。維持費は、NPO等の協力を得て5千万円程度に抑えます。

総合公園は高い買物になったのでは

市民の憩いの場となり、青少年の健全育成の場となれば、決して高い買物とはならないと思います。

震災復興事業せいたくすぎたのでは震災に強い、次世代に引き継ぐまちづくりを行うためには、施設整備は必要です。

市職員の給与はまだ高い

ラスパイレズ指数で言えば、国100に対して、102台だったものが98台まで下がります。阪神間でも最低レベルになります。

職員を減らすのに時間をかけすぎ

退職者が30人出るとしても採用を5人に抑えるなどし、できる限り減らします。「民間と比べて甘い」という声がありますが、自治体としては25%・200人を減らす計画は、画期的な数字だと思います。

市会議員報酬が高い、議員数が多い

定員は今回の選挙で4人減っており、削減率としては相当な数字だと思います。議会において判断をされることと思います。

学力をしっかりつけてほしい

「芦屋の子どもたちは芦屋の公教育で」の方針で取り組みます。学力テストの結果もお知らせしていきます。

児童生徒の安全確保を

警察官の立ち寄り、インターフォンの設置、地域・PTAによる見守り運動等を進めています。

学童保育の有料化は負担大きい

これまで無料でしたが、応分の負担をお願いするものです。他市並みを基準に見直しました。減免制度も設けています。

幼稚園の廃園はどこか

廃園する園は、まだ決まっていません。総合的に判断します。

各集会所でのご意見・ご要望は、市役所行政情報コーナーでもご覧になれます。市ホームページに掲載しています。

廃園する幼稚園の近くの園に影響が出ないようにしてほしい

現在の収容数や人口増加も踏まえ、通園区の検討等、誠意をもって取り組みます。

公立保育所を増やしてほしい

官から民への流れがあります。公立で、すべてやるのは無理があります。

民間は保育水準が低い

公立だから良い、民間だから悪いとは言えないと思います。そういうことがないように、しっかり指導していきます。

福祉金はなんとか続けられないか

他市でも、廃止や見直しが行われています。聖域なき行政改革のもと、見直しが必要でした。

ごみ収集回数の変更、周知が不十分

説明会を行って、周知に努めます。

集会所はどういう運営になるのか

地域で自主的に運営していただきたい。十分話し合いをしてまいります。

美博、収支のみで考えるのは無理

「具体」関係の展示は最小限にし、より広く市民から親しまれるものにしたい。経営主体は、民間でも良いと思っています。今後は1億5千万円の負担を続けられませんが、赤字の幅をどこまで縮小できるかの議論が必要でしょう。改革ができなければ、休館しかないと考えています。

病院は民営化に 民営化反対

病院へ毎年、8億ないし9億円を繰出すことはできません。専門家で構成する委員会、今後の病院経営のあり方を検討してもらい、4月末を目途に一定の結論が出るようお願いしています。

市民も手伝います、力貸します。

行政がすべてやる時代は終わったと思います。市民が主役で、行政が支援するようになります。参画・協働しやすいよう窓口もつくりたい。ご協力をお願いします。

その他のご意見、ご要望

マンション乱立に歯止めを / 総合福祉センター建設を / 犬のふん、放置自転車等モラル向上を / 東南海地震で津波被害が心配 / 市民へしわ寄せする行革反対 / 情報公開、計画フォローをしっかりと / 子育て支援で若い人が増える / 集会所トークをまたやって欲しい。



幼稚園って どんどころ?

ベストセラーになった著書「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」にも記されているように、幼児期は、人間形成の基礎を培う時期です。この大切な時期に本市の幼稚園では、自然の教育力を生かし豊かな感動体験や地域の教育力を大切に保育しています。幼児は、友達との生活や遊びを通して、充実感や満足感を持ち、意欲的に生活を広げていこうとします。また、一人ではできないことや自分で考えないといけないこと、我慢しなければいけないことなども経験します。その時には、周りの人に助けをもらいながら幼児なりに解決し、乗り越える経験を重ねていきます。教師も良い保育を目指し、研修を積み重ねています。保護者や地域の皆さんのご理解とご支援のもと、楽しく充実した幼稚園生活をスタートさせたいと思います。

問い合わせ 学校教育課 ☎38-2087

